



とーや湖

さざなみ通信

秋の明るさのなかへ
「素朴な琴」をおいきました。
洞爺湖町 浮見堂公園



ごあいさつ

院長 中谷 玲二

新型コロナウイルス感染症の第7波が収束に向かい始め、コロナ禍により落ち込んだ経済の立て直しが求められています。その経済の回復に伴って大きな問題となっているのが人材不足です。特に、観光需要の増加に対してホテルなどでは従業員の不足が取り上げられています。一方、介護の分野における人材不足は慢性的に指摘されております。

その中で、当院では介護を担う技能実習生を6月にミャンマーから二人迎えたことを前号の広報誌でお伝えしました。今回は、9月に特定技能外国人材をインドネシアから二人迎えたことをお伝えします。特定技能とは、人材の確保が困難な一部の産業分野の人手不足に対応するため、一定の専門性・技能を有する外国人材を即戦力としての労働者として受け入れる制度です。14の特定産業分野が定められており、介護はその中の1つに入っています。語学力という側面では、日本人と同様の理解力は現状ではハードルがありますが、彼女らがひたむきに働く姿や、日本語を真剣に学ぶ姿勢は、逆に日本人が学ぶべきことも多いと感じています。技能実習生も特定技能外国人材も、施設全体を明るく温かくしているようにも感じており、彼女たちの入職は、良い

意味で刺激になっていると思います。

もう一点、最近変わってきたと感じているのは、対面形式の学会や会合などの開催であります。Zoomなどを用いたウエビナー形式の学会は、感染対策と同時に時間と費用が節約され、アーカイブしておくことで好きな時間に何度も視聴することも出来てとても便利です。しかしながら、討論が盛り上がりにくいことや講演のはざまにおける交流の機会がないことなど、デメリットも決して少なくありません。

当院では、毎月1日に例会を行っていますが、コロナ禍で2年以上、参加者を限定して実施していました。この10月は久しぶりに全職員参加で例会を開催しました。直接多くの職員の顔を見ながら話しをすることは相互の距離感を縮めるように思われ、例会本来の意義を感じる事ができました。

当院は、皆様との対話や直接のふれ合いを大切にしながら医療に携わらせていただきます。これからも皆様からの特段のご支援・ご指導を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

令和4年10月14日

院長 中谷 玲二

なのはな2F 「なのはな小夏祭り」実施報告

なのはな2F
浅利課長

なのはな2Fでは8月末日に「なのはな小夏祭り」を開催しました。

ダイルーム中央にスタッフ手作りの櫓(やぐら)を建て、盆踊りを流しながらスタートしました。出店では綿あめ、かき氷、フルーツポンチ、たこ焼き、フランクフルト等を準備し、利用者様にも喜んでいただきました。何度もおか

わりに来てくれる方もいて私達も大変嬉しかったです。射的や輪投げ、ヨーヨー釣りのゲームコーナーでは、皆さん真剣な顔で取り組まれていました。

コロナの影響により2年ぶりの開催となり、規模も縮小したものでしたが皆さんの笑顔が沢山見られ、スタッフも今後の励みになる会となりました。



やぐら



出店



お祭り会場



射的ゲーム



ヨーヨー釣り

「ガラス越し面会」実施中

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当院では入院中の患者さんとの直接の面会を原則禁止としておりますが、西病棟1階の玄関風除室を利用して、患者さんとガラス越しに面会できる時間を設けております。

面会は事前にご予約頂いた上で1日3組までの面会対応となります。面会人数にも制限がありますが、ご家族は風除室の中で天候に左右されずに、また、患者さんもスタッフがお連れした玄関内側で室内の快適な環境の下、ガラス(戸)越しにお互いのお姿を見ることができます。

また、お話しも双方に医療用PHSをお渡しし、明瞭に会話ができるので、大変好評をいただいております。

面会の詳しい内容やお申し込みについては患者さんの入院病棟・利用施設へお問い合わせください。



面会中：患者さん側から



面会中：ご家族側から

介護職の特定技能外国人材として 介護医療院『なのはな』にインドネシアから ウマイさん、フリスカさんのお二人を お迎えしました。お二人からのご挨拶です。

こんにちは。

私は、インドネシアから来ましたウツミ・ウマツヤと申します。ウマイと呼ばれています。介護医療院「なのはな」3階で働いています。インドネシアの助産師

の大学を卒業しました。その後、日本語を6か月くらい勉強しました。でも、当時はコロナウイルス感染症のため、日本に行くことができませんでした。日本語を勉強してから、孤児院でボランティアをしたり、助産師としてクリニックで働いたりしていました。コロナウイルスが減ってきて、日本へ来ることができてうれしいです。

日本へ来るときから、やさしい日本人にたくさん出会いました。5年間くらいは日本で暮らす予定ですが、機会があればずっと住みたいと思っています。日本で生活して、日本の仕事の仕方や文化を学び、いろいろな経験ができればと思っています。

「日本語」の試験も受けてみたいです。

日本には健康保険や介護保険など良い保険サービスがあるので、それを学ぶためにも一生懸命仕事を頑張りますので、よろしくお願いいたします。



お誕生会で利用者さんにケーキを食べてもらいました



ウマイさん

フリスカさん

なのはな3Fでお二人の歓迎会が催されました

こんにちは。

私は、フリスカ・リリ・ウランドリと申します。インドネシアから来ました。今、介護医療院「なのはな」3階で勤務しています。私はインドネシアの私立大学でマネージ

メントを専攻し卒業しました。日本に来る前に旅行会社やマーケティングの仕事をしたことがあります。

私は日本語学校で7か月くらい日本語の勉強をしました。日本で働いて、新しい経験や知識を得たいと思ったからです。

私は人と話をすることや手伝いをするのが好きです。介護は多くの人とコミュニケーションをとるので、介護の仕事を選びました。そして、介護福祉士になることが目標です。

日本に来ることができてうれしいです。日常生活も洞爺温泉病院の仕事も少しずつ慣れてきました。それは職員の方々のおかげです。いつも教えてくれる皆さんは、とてもやさしいです。

今後、ここで5年くらいは働きたいし、チャンスがあれば、ずっとここで働きたいです。これからも頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



今日は食事介助です「お口をあけてくださ〜い」

外国人技能実習と特定技能の制度比較

	技能実習	特定技能
制度の目的	海外への技術移転が目的	深刻な人手不足の解消（14の産業分野に限定）
日本で働くことができる年数	技能実習1号→在留期間1年以内 技能実習2号→在留期間2年以内 技能実習3号→在留期間2年 最長で5年	特定技能1号の在留期間は、通算で5年
補足（共通）	家族の同伴は認められていない 但し、「介護福祉士」を取得した場合は、在留資格が「介護」となり、家族の帯同が認められる	
能力水準	介護分野のみ入国時にN4レベルの日本語能力が求められる	「即戦力」足りうる必要があるため、特定技能試験と日本語能力の両方に合格した人材
管理機関	管理団体「一般管理事業」と「特定管理事業」とに許可が分かれていて、「一般管理事業」の許可を受けていないと、3号技能実習に関与できない	登録支援機関

当院には、前号で紹介した技能実習生2名と今号で紹介した特定技能外国人2名が働いています。技能実習生はミャンマーから、特定技能はインドネシアと国の違いはありますが、仕事に対する熱意や利用者さまへの関わり方は、どちらもとても丁寧で、優しいと感じます。

また、上記表のとおり制度を比較するとそれぞれの特徴はありますが、働く現場では、大きな違いは感じません。それは、言語能力や介護能力を含めて見ても同様です。

介護分野は、今後も人材不足が続くことが予想されます。私たちは、外国人材の協力も得ながら、引き続き、適切なサービスを提供してまいります。

洞爺温泉病院の理念

- 個別性を尊重した医療の提供
- 信頼されるチーム医療の実践

介護医療院なのはなの理念

- ◆ 利用者の個別性を尊重した快適な生活施設
- ◆ 信頼されるチーム医療・介護の実践
- ◆ 尊厳ある看取りが行われる

編集後記

当院へ入職する前に、ここへ見学に訪れたのですが、その際、トイレが綺麗な事に感心しました。中に入って見てみたいとわからないことと思います。当院には素晴らしいスタッフが沢山います。この広報誌を当院を知るきっかけにして頂きたいと思います。そして当院をうまくご利用頂きたいと思っています。(T.O)

企画・編集

医療法人社団洞仁会洞爺温泉病院 広報図書委員会
〒049-5892
虻田郡洞爺湖町洞爺町54-41
TEL 0142-87-2311
FAX 0142-87-2260
ホームページ
<http://www.toya-onsen-hospital.or.jp>

